

平成 27 年度 第 2 回 インデューロ委員会

議事録 ダイジェスト

開催日： 2015 年 11 月 11 日（水） 11 時 00 分～17 時 00 分

開催場所： 東京・築地・MFJ 会議室（東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F）

I. 2015 全日本シリーズ開催状況中間報告（第 3 戦まで）

1. JEC シリーズ(全日本)

第 3 戦北海道日高 2DAYS 大会までのエントリー状況のデータが説明された。

全日本の小計では 119%と増加。クラス別では、IA:100%、IB:133%、N:129%と順調に増加している。

全日本ウィメンズが 80%と減少しているが、委員会でも議題となっている承認ウィメンズとの技量分けの影響が表れていると考える。

2. 全日本シリーズ報告事項

① 広島(テージャスランチ)

大会は特に大きな問題も発生せず、無事終了した。2 件のペナルティ対象の事象が発生した。

② 近畿(プラザ阪下)

開催日が急に暑くなった時期となり、選手・運営スタッフともに熱中症状を訴える人が発生した。パドック付近に SS が設定されるなど、コース内容も含めて、選手が飽きない工夫がなされていた。

課題① 暑さにより競技時間を 30 分短縮した為、ファイナルクロスの開始時刻が 30 分早められたが、通達がパドックまで徹底されておらず、出走できないエントラントが発生したことが報告された。

課題② ファイナルクロスと観客が近い箇所があり、コースアウト時に観客事故になりかねない為、セーフティマージンを確保する、またネットなどで補強するなどの対策を改善してほしいとの要望が選手会から提案された。

③ 日高 2DAYS(日高町)

悪天候によりハードな設定となったが、IA クラスのレベルには丁度良く、IA は満足いく内容だったと思う。「日高らしいコース」という印象であったが、ナショナルクラス以下承認クラスの参加者には、難しい設定であり、負傷者をドクターヘリで搬送するなどの事例も発生した。(診察後、当日中に戻ったと報告された)

北海道 ED 部会長より主催者・競技運営団の事前打ち合わせ不足、意思疎通が不徹底であった為に競技会の運営に不備が生じ、参加者をはじめとする関係者へ迷惑をかけたことについて謝罪があり、今年の反省を踏まえ、来年に向け改善することが報告された。

<日高 2DAYS 主催者より>

悪天候によるコースコンディションの悪化に伴い、変更への対応が予測できなかった。

特に町牧 ED テストの悪化が激しく、反省点として SS の設定を慎重にしなければならないことが挙げられる。この考えで、上位クラスに物足りなさが残ることも考えられるが、競技成立を優先に検討したい。

本大会において、以下申し送り事項が報告された。

◇ 負傷した選手の救護にあたったと判断された選手(4 名認定)の遅着ペナルティを減免した

◇ プレフィニッシュを見逃した選手に対し、失格ではなく 5 分ペナルティと裁定した

◇ 規則書 P287²⁷ タイムリミット「60 分以上遅れて到着すると失格」の表記を変更すべき

理由として・・・遅れてもタイムを挽回できる規則はライダー救済(競技続行)の観点で設定した規則であるが、遅着を挽回する為に移動で加速する行為などは危険であり、エントラントのモラルの問題であるものの、規則で制限すべき

決定事項・・・「早・遅着のペナルティ合計が 60 分以上となった場合、失格」と表記を変更する。

この規則の解釈は、競技終了後、最終的にタイムペナルティが 60 分を超えた選手は失格となるが、競技途中で失格を通告し、競技から除外する意味ではない。従って、各大会の主催者は、タイムコントロールで途中申告を設定したり、途中経過で 60 分以上のタイムペナルティを暫定的に算出し、当該選手に通告し競技から除外させる必要は無い。

◇ インターナショナル B クラス Day1 のリザルトに主催者の間違いが判明し、改訂したい。

経緯の説明・・・悪天候の為、耐水製のタイムカードも判別が困難な程ボロボロとなっていた選手が複数名いた。コースコンディション悪化で各クラスともタイムペナルティ対象者が増大し、結果集計に時間を要した。トランスポンダーを採用していた為 SS のタイム計測に不備は無かったが、タイムチェックの時間集計に間違いが発覚し、本来 60 分以内であった選手 4 名に対し、「60 分以上失格」として取り扱ってしまった。

ED 委員会・・・競技会の結果の取り扱いについては、競技規則書に明記されている通り、暫定結果の公示(抗議受付時間)→正式として取り扱われるべきものである。(規則書 P290)³⁷抗議 37-2)

既に抗議受付時間は過ぎているが、本大会主催者の不手際により正しい結果が表示されなかった事実が検証の結果明確となっており、対象ライダーの落ち度は無い。主催者から正しい結果に改訂したいとの要望が ED 委員会へ提案された為、特別に承認された。

決定事項・・・「2015 全日本 ED シリーズ第 3 戦日高 2days IB Day1 リザルト」を改訂する。

検証の結果、主催者において誤りが確認された 4 選手の順位を 13・14・15・16 位に復活させ、それに基づくポイントランキングの改訂も行う。

大会主催者は、専用 HP での公示と当該大会 IB 出場選手全員に対し、改訂となった経緯説明と改訂リザルトは郵送し、周知徹底を図ることを条件とする。

④ 東北 ED 部会より

福島で全日本シリーズを開催するにあたり、開催要件を明確にしてほしいとの要望が上げられた。

意見

- 前回議題のあった通り、全日本は JEC を通して運営サポートを行う
- 計測は、トランスポンダーをつけてテストタイムで混乱したという実績が現時点では無い為、全戦でトランスポンダーを導入してほしい
- 大会運営と計測業務(結果出力)は別のものと考え、計測業務は専門業者(プロ)に任せ、リスクを減らしてほしい。(選手会要望)
- ライブリザルトは、あった方がよいが、正しく迅速な競技結果(リザルト)の出力が最優先である。
- 全日本シリーズを開催する前に、オンタイムエリア戦を開催し、ED 委員が現地で確認し、実績を証明してから承認されるという段階を踏む。以前、中部の中嶋委員に作成して頂いたチェックリストを査察用としてオフィシャルにすべき。

決定

主催者の認識事項であり、規則化すべき項目ではない為、運営マニュアルを作成する。

3. MFJ ライセンス登録状況報告

10月31日付のライセンス登録者数の比較データが提出され、エンデューロライセンスは全体で135%、国際が105%、国内が149%と大幅に増加。全日本選手権シリーズに加え、エリア選手権シリーズの拡大が国内ライセンスの増加に大きく影響していると分析。また、今年から値段を下げたエンジョイライセンスが128%と好調であり、特に承認エンデューロが貢献していることが報告された。

II. 2015 全日本・エリアシリーズランキング報告

1. 2015 全日本シリーズランキング(第3戦日高まで)のランキングが確認された。
第4戦 SUGO2DAYS 大会終了後、最終ランキングを報告することが事務局より報告された。
2. エリア選手権シリーズの昇格者
東日本エリアを除く3地区(北海道・西日本・九州)のエリアシリーズ昇格者が承認された。
東日本エリアは、SUGO2DAYS 大会終了後、最終ランキングをもって確定する。

III. 2016 カレンダー調整について

- 第1戦 広島 5月8日 テージャスランチ ※5月22日で調整されていたが、会議後変更された。
第2戦 近畿 6月19日 プラザ阪下 ※4月3日→7月3日で調整されたが、12/16変更された。
第3戦 日高2DAYS 9月17日～18日 日高町 ※2016は2DAYS 制で行う。(2015は3DAYS)
第4戦 SUGO2DAYS 11月19日～20日 スポーツランド SUGO

エリア選手権シリーズの開催日程は、各地区で調整後、JEC プロモーションならびに MFJ 事務局へ報告することが確認された。

2016 年度より、近畿地区と中部地区において“中日本エリアシリーズ”を新たに立ち上げることが提案され、承認された。(北海道、東日本、中日本、西日本、九州となる)
開催イメージとして、近畿1戦(全日本)、中部3戦(静岡2戦、富山1戦)でシリーズ4戦として調整を進める。

ISDE:10月11日～16日 スペイン
WE RIDE 三宅島(特別競技会):11月12日～13日

IV. 前回議事録の確認、作業部会報告

承認済の平成27年度第1回エンデューロ委員会議事録が提出され、継続審議事案について、7月30日に普及作業部会で見解をまとめられた内容が事務局より報告された。

(1) ウィメンズクラスの扱い

全日本ウィメンズ、承認 CW の他、ナショナルクラスなど女性選手の出場クラス選択肢が複数あるが、コースのレベル設定などを明確にする為に整理が必要ではないか?との提案について審議された。

作業部会

現状通り、全日本ウィメンズと承認 CW クラスは、当面両方設定する。全日本ウィメンズは承認 B クラスと同等のコース設定とする。

決定事項

上記作業部会決定が承認された。JEC でウィメンズ選手の意見をアンケートで調査することを検討する。

(2) シリーズゼッケン管理

現状の IA、IB だけでなく、ナショナルクラスとウィメンズクラスにも年間指定ゼッケンを適用すべきとの提案がなされ、審議された。

作業部会

- ◇ 2016 年より全日本 IA、IB、ナショナル、ウィメンズクラス全てに対して年間指定ゼッケン制度を適用。
- ◇ 年間シリーズゼッケンの管理は、JEC プロモーションにおいて管理される。
- ◇ 各クラス年間指定ゼッケン対象者は、昇格者を除く前年同クラスのランキングを基に付与される。

決定事項

上記作業部会決定が承認された。

(3) ピットクルー登録

現状の全日本対象クラスだけでなく、承認併催クラスもピットクルー制度を適用してはどうか？との提案に対し、審議された。

作業部会

現状通り、全日本対象クラスのみピットクルー制度を義務付けとし、併催承認クラスは公式通知または大会特別規則で対応する。

決定事項

上記作業部会決定が承認された。

(4) IA 登録者リストとゼッケンの管理

現状、IA 出場者リストと年間ゼッケンを同一で管理しているが、既にライセンスを更新していない選手もあり、現状のままだと、今後追加登録が増加し、IB 以降のクラスのゼッケン登録者の桁が増えてしまう。

IA 登録者の年間指定ゼッケンは、前年ポイント獲得者と IB 昇格者(全日本・エリア)だけにすべきとの提案に対して審議された。

作業部会

- ① IA 年間指定ゼッケンは、前年ポイント獲得者とする。
- ② ①の後に全日本 IB 昇格者、さらにエリアからの申請昇格者(北→南へ)を登録する。
- ③ ポイント未獲得者、過去 IA に登録され 2016 出場する選手、シーズン途中で IA 登録された選手は、都度ゼッケンリストに登録する。

決定事項

- ◇ 年間指定ゼッケンと IA 出場者リストは JEC プロモーションで全て管理する。
- ◇ IA 年間指定ゼッケンと IA 出場者リストは別管理とする。(ライセンスが同じ国際であることが問題)
- ◇ IA:1~50、IB:51~150、W:151~200、N:201~でゼッケンを管理する。

現状国際ライセンスを IA と IB に分別する要望が提案されたが、システム改良コスト負担の増加も懸念され、現状での対応は難しいことが説明された。

インターバルの空いた IA 登録選手がカムバックする際に IB からスタートさせる案も上がったが、IA で出場することと統一解釈がなされた。

九州意見

九州エリアの出場者平均年齢は 43 歳で、ピラミッド構造を構築する為、国際と国内ライセンスの昇降格基準を設けることにより、上昇を目指す選手の育成と降格の恐れが生じることへのプレッシャーにより、活性化を進める施策を検討したい。

現状、ライセンスの昇格規定はあるが、降格規定が無い為、改善すべきではないだろうか。

決定事項

ライセンス国際 → 国内への自動昇格基準を新たに設定する。(2017年4月1日～)
IA でライセンス未更新の選手が多いこともあり、RD と同様に欠格期間を4年間とし、国内へ降格する制度を新たに設ける。2016年規則書には予告を掲載し、2017年4月1日から適用の2017年度ライセンスを基準に4年間未更新となっている国際ライセンス選手を国内に自動降格させることとする。

(5) 主催者推薦枠、国際ライセンス取得条件の改訂

作業部会

- ① 現状、RD 国際・MXIA・TRIA のライセンス登録者が ED ライセンスを初回のみ追加する場合、国際を申請することができる規則を MXIB・TRIB に改訂し、対象を広げたい。
- ② 主催者推薦枠として、他種目チャンピオン獲得者等が IA に出場できる規則を設定したい。

決定事項

- ① 現状通り MXIA・TRIA のままとする。
- ② ポイント対象外・賞典外出走として主催者推薦により IA へ出場することを認める。推薦のガイドラインは、主催者の判断に任せる。当該選手が出場する場合は、ED 国際ライセンスを追加所持することを条件とする。

(6) ナショナルクラスの2分化

技量差が大きいナショナルクラスにおいて、特にスタート順を考慮してほしいとの要望が選手から提案されていることが JEC プロモーションから報告され、審議された。

決定事項

2016年より、現状通りポイントはナショナルクラスとするが、前年のランキング順に指定ゼッケン取得者を A グループ、それ以外の選手を B グループと分け、スタート順を JEC プロモーションにて調整することが承認された。

(7) ランキング認定表彰式対象者の拡大

他種目同様、国際ライセンス所持者を全日本ランキング認定表彰式の対象者として認定してほしい。

決定事項

事務局にて検討し、2015年度よりこれまでの IA に加え、全日本 IB クラス 1 位～3 位も追加することが承認された。

(8) ISDE の派遣について

エンデューロ種目のさらなる活性化の為、ISDE トロフィーチーム(日本代表)を派遣する方法を検討すべきとの提案がなされた。

決定事項

募金やグッズ販売、積立金などの意見があったが、具体的な策は得られず、継続検討課題とせざるを得ない。2015年は最終戦終了後、12月末日までを締切日とし、例年通り有資格者へ案内を発信し、出場意思確認を行う。(プレエントリー:2016年1月)

(9) エリア選手権シリーズの調整

北海道・東日本・西日本・九州と、来年から始まる中日本の5エリアのシリーズカレンダー調整と暫定ランキング集計を各地区の代表者がとりまとめ、JEC に情報を提供することが了承された。

V. 国内競技規則改訂 (案)

(1) 規則改訂

P287 **29** テスト 29-1 スペシャルテストは、1日あたり15kmを目安とし、~~2種類以上の~~テストが設定されていな～

P291 **41** ISDEトロフィーチームの選考について … ①～③を追記

MFJはトロフィーチーム(日本代表チーム)としての同大会への出場を認定する。

トロフィーチーム出場選手:6名

① 前年度全日本インターナショナル A クラスシリーズランキングポイント獲得者

② 前年度全日本インターナショナル B クラスからの昇格者

③ MFJ エンデューロ委員会から推薦を受けた者

上記①～③いずれかから選出され、MFJ エンデューロ委員会で承認を受けなければならない。

P295 **16** エンデューロ用タイヤ(FIMスタンダード)

IA・IBのみ本規則を適用し、ナショナルクラス、ウィメンズ、承認クラスは、大会特別規則に則ることを表記。

P297 **22** ヘルメットの着用

MFJに公認された“フルフェイス型”のヘルメットでなければならない文面を追記。

P298 **25** ノイズコントロール(音量測定)

音量測定が実施される場合は、2mMAX方式で実施されるよう追記。(固定回転方式削除)

(2) 2016年度ライセンス発行より、スポーツ安全保険が改訂されることがMFJ事務局から報告された。

※新たに65歳以上の方に適用されるB区分が新設され、補償内容が改訂された。

(3) 安全対策の為のコーステープ支給要望

JECプロモーションおよび全日本主催者より、今年に続きMFJコーステープの支援について要望され、事務局で検討することになった。

以上、17時閉会
MFJ エンデューロ委員会
委員長 藤原 広喜